

診療局：病理診断科

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
部 長	今北 正美
医 長	伊東 良太

＜特色と概要＞

2008年に「病理診断科」が広告可能な標榜科名として認められ、医療法施行令第3条の2に「病理診断科」の名称が付け加えられた。当院では、2014年に病理診断科を標榜したが、実態としては、検査科の一部門として運営されていた。2019年4月より、病理診断科は検査科とは分離され、独立した診療科となった。2020年4月より、医師1名が増員され、医師2名で業務を行っている。

病理診断科の業務は、細胞診断、生検組織診断、手術で摘出された臓器・組織の診断、手術中の迅速診断および病理解剖からなっており、診断を確定するためないしは最終診断として「病理診断」は大きな役割を果たしている。

＜実績＞

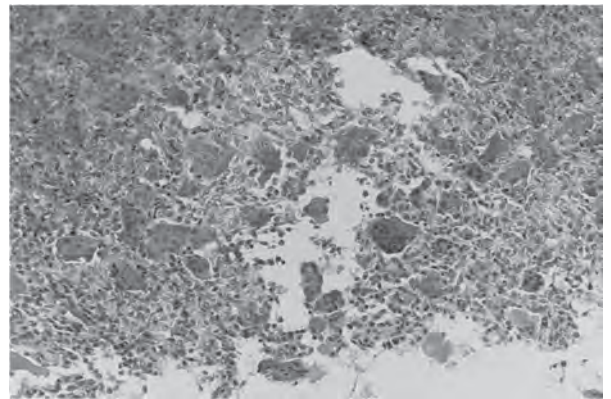
年	2020	2021	2022	2023	2024
組織診	4,416	4,632	4,729	4,673	5,587
術中迅速組織診	204	196	175	177	153
細胞診	4,844	4,712	4,539	4,550	4,642
術中迅速細胞診	101	106	77	88	137
病理解剖	9	9	8	15	9

上記に直近5年の実績を掲載した。組織診はコロナの影響で減少したが、徐々に増加してきていた。今年は、消化器内科の充実により、特に内視鏡検体が増加し、検体数としては20%弱の増加となった。術中迅速組織診は153件、細胞診は137件実施されている。ROSEによって迅速細胞診が増加した。これ以外にオスナ法による迅速診断が47件施行されている。今年度の病理解剖は9件であった。

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

組織診件数は5,000件/年をこえ、術中迅速診断も200件/年を数えていることは、当院で高度な医療が実践されていることの反映と考えられる。病理解剖は年々遺族の承諾を得るのが難しくなっているが、関係各位の尽力により10件/年以上を目標としている。今年度は目標には1件足りなかった。

より質の高い診断を目指して研鑽するとともに、他科との症例検討会を継続開催する。



巨細胞性腫瘍

診療局：検査科

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
部 長 兼糖尿病・内分泌代謝内科主任部長 兼臨床検査センター長兼甲状腺センター長	高野 徹

＜特色と概要＞

詳細については「共同運営部門：臨床検査センター・輸血・細胞治療センター」をご覧ください。